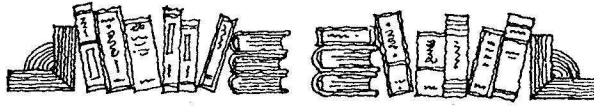


国語国文学会だより



No.10

1993.11

国文学科卒業生の会

国語国文学会 秋季大会・公開講演会のご案内

平成五年度の秋季大会・公開講演会を、左記のように開催致します。
ご多忙のこととは存じますが、お誘い合わせのうえご出席下さいますよう、
ご案内申し上げます。なお、会員以外の方々のご来場も歓迎いたします。

日時・平成五年十一月二十七日(土)

場所・(午前) 桜楓会館新館 三〇七号室・(午後) 八十年館・八五一号教室

【午前の部】＊研究発表会 桜楓会館新館三〇七号
(午前九時三十分～一四時四十分)

(1) 錯綜する(母)・不在の(父)―「三四郎ノート」―
本学大学院博士課程 藤木直美氏

(2) 三島由紀夫「橘づくし」における伝統と近代
本学大学院博士課程修了 中野裕子氏

(3) 「水鏡」の伝本とその増補記事をめぐって
本学大学院博士課程修了 多田圭子氏

(4) 「仁徳紀」イハノヒメ伝承における丸迹臣口子
本学大学院博士課程修了 壬生幸子氏
共栄学園短期大学助教授

昼休みに図書館5階518講義室で「古典芸能」「源氏物語の世界」などのビデオをご覧になれます。

【午後の部】＊講演会 八十年館八五一号教室
(午後一時三十分～四時三十分)

＊開会の辞 (学生委員)

＊活動報告・連絡事項 (学生委員・卒業生常任委員)

＊学科主任挨拶 (阿蘇先生)

(1) 「ことばとコンピュータ」
日本女子大学教授

石渡俊雄氏

……………(休憩)……………

(2) 「日本文学はなぜ面白いのか」
日本女子大学客員教授

ドナルド・キーン氏

＊閉会の辞 (学生委員)

懇親会のご案内

秋季大会終了後、生協食堂に場所を移して、
先生方、在学生をまじえての懇親会を開催いたし
ます。

会員皆様の、多数のご出席を心からお待ち致し
ております。

尚、同封の葉書にて出欠をお知らせ下さい。

時・午後四時四十五分～六時十五分
場所・生協食堂(ウィミン)
会費・卒業生 三千元
在学生 千五百円

(当日、大会受付にていただきます。)

石渡俊雄先生のご紹介

石渡俊雄先生は、一九二八年六月、東京のお生まれ。一九四九年に早稲田大学教育学部を卒業、中央区立月島第一中学校教諭を二年ほど勤められた後、一九五四年より国立国語研究所員となられ、同所で二〇年余にわたり活躍になりました。

一九七六年より次城大学教養部教授となられ、教養部長などの要職もお務めになりました。そして、一九九二年四月私どもの求めに応じ、日本女子大学国文学科教授にご就任くださいました。

また、一七期・一八期国語審議会委員をはじめ、広く社会的活動もなさっていらっしやいます。

先生のご専門は、日本語学・言語学。特に、語彙論、構文論、外来語研究、言語情報処理、対象言語学の諸方面で、学会をリードする優れた業績を数多く示されています。

ご著書も

『電子計算機による新聞の語彙調査Ⅰ』（共著、秀英出版）

『角川最新国語辞典』（共編、角川書店）

『日本語の中の外来語』（岩波新書）

『基本外来語辞典』（東京堂出版）

『朝倉日本語新講座 3、6』（共著、朝倉書店）

『対照言語学』（共著、桜楓社）等々、

とても紹介しきれません。

先生は、謙虚、誠実、かつ温和なお人柄で、私どもや学生にも実に丁寧に応対くださり、学科一同の尊敬と信頼を受けていらっしやいます。学生の頃から、先生のお仕事を憧れ仰ぎ、多くのことを教えられた私など、お側近くに接せられる慶びに日々感謝しております。そして、先生のいつも絶やさぬ笑顔を慕う学生も、少なくないようです。

（清水康行記）

Donald・Keene 先生のプロファイル

キーン先生は、一九二三年、ニューヨークのお生まれ。一九四二年、コロンビア大学（フランス文学専攻）を卒業の後、同大学院で東洋文学を専攻。一九四九年、「近松門左衛門の『国性爺合戦』の研究」で博士号を取得された。同年、ケンブリッジ大学の修士号を得られ同大日本研究講師。一九五三年から二年間、京都大学大学院に留学され、この間、谷崎、三島など日本の代表的作家たちと親交を深め、狂言師に師事するなど、日本文化の精髓に触れたことは、ご著書『青い目の太郎冠者』でご存じの方も多いだろう。一九五四年よりコロンビア大学助教授、六〇年同大教授。一九八一年ケンブリッジ大学の文学博士号を取得。ライフワークの『日本文学史』初篇「近世篇」により一九八三年、大阪府より第一回山片蟠桃賞を、また『百代の過客』により読売文学賞を受賞、その他日本での受賞だけでも菊地寛賞・国際出版文化大賞・読売文学賞・日本文学大賞などを受けられ、一九八七年コロンビア大学日本文化センター「新潮チェア」初代教授。翌八八年コロンビア大学ユニバーシティ・プロフェッサー就任、九〇年、日本学士院名誉会員となられた。九二年六月より日本女子大学大学院に客員教授としておいでいただいた。多年にわたる海外への日本文化紹介のご貢献に対し、この四月勲二等旭日重光章を得られたのはご承知のとおり。

代表的著作『日本文学史』一〇巻（中央公論社）、『百代の過客』正統五冊（朝日選書）をはじめ多数のご著書がある。音楽にも造詣が深く、静謐とユーモアのほどよくミックスしたお人柄に一同魅せられている。

以下は受講学生の弁。

ウェイリーやサイデンステッカー訳を通して源氏を語り、芭蕉や古今集英訳の苦心談から日本文学の特徴を示してください。谷崎・川端・三島たちとの交友体験を、彼等の作品への愛情をこめて伝えて下さる。世阿弥は日本最高の詩人の一人だと熱っぽくおっしゃり、狂言の実演で教室を沸かせて下さる。ギリシャ神話と百合若大臣、卒都婆小町とハムレットを同時に比較させつつ展開される授業に、私たちは毎回、圧倒されつつ魅了される。最近のご著書に『声の残り 私の文壇交遊録』（朝日新聞社）『日本人の美意識』（中央公論社）『古典を楽しむ』（朝日選書）がある。

（後藤祥子・田辺玲子記）

会員の著書紹介

『煌めきのサンセット』——文学に「古い」を読む』

「煌めきのサンセット」——夕日は夕日であるがゆえにきらめいて、深く余韻を刻む。」これは、『煌めきのサンセット』——文学に「古い」を読む』の「はじめに」で加藤美枝氏が書かれた文章の一節である。一番ヶ瀬康子先生が会長である福祉文化学会のライブラリーの一つとして本書が出された。文学作品の中にテーマにそって「古い」を読みとる試みである。内容を紹介してみると、

☆ 古いとユーモア——有吉佐和子『三婆』『恍惚の人』より（丸山和香子氏）

☆ 古いと生命（いのち）——木崎さと子『青桐』より（加藤美枝氏）

☆ 古いと自由——大庭みな子『海にゆらぐ糸』より（江種満子氏）

☆ 古いの華やき——岡本かの子『老妓抄』より（漆田和代氏）

☆ 古いの美学——紫式部『源氏物語』より（高野晴代）

☆ 古いの智慧——室町・江戸期の作家と作品より（平田澄子氏）

の六篇が収載される。さらに「古いの入り舞い」として一番ヶ瀬先生の『長い命のために』（早瀬圭一）をはじめ二五の作品が紹介される形式で「古いとはなにか」が問われていく。

私は、『源氏物語』の担当で、しかも「古いの美学」のテーマという大変むずかしい課題であった。大きく二つの視点を設定した。

一つは、「次世代につなぐ愛」ということ。

たとえば若紫へのその愛の大きさゆえに、北山尼君が「あて」といわれ、明石の君への期待の大きさゆえに、明石入道が「きよげ」と評されるように、次世代への想いによって生へのエネルギーを得、美しく生きる人々の姿を考えてみた。

もう一点は、光源氏が「幻」の巻の最後で「御容貌、昔の御光にもまた多く添ひて、あり難くめでたく見えたまふを」と、昔よりさらに美しく登場する場面に象徴される考え方である。栄光の人、自信にあふれる人ではない、優しさを兼ね備えた人間らしい光源氏像が描かれる。それは、年を重ね、経験を重ねたためではなかったか。

「はじめに」では、本書が、これらの作品とともに、高校や大学、福祉や看護をめざす専門学校の学生の方々をはじめ、多くの方々に広く読まれ、「古い」への新たな目を開き、また自らの生（＝死）への道程を考えてみるきっかけになることを願っている。」と結んでいる。『煌めきのサンセット』——夕日ゆえに、きらめくのである。

◇『煌めきのサンセット』——文学に「古い」を読む』

二、〇〇〇円 中央法規出版
（高野晴代記）

歌舞伎鑑賞会の報告

（学生の会の活動より）

前期試験が七月に変更されたこともあって、昨年より一ヶ月早い六月六日、国立劇場にて第四二回歌舞伎鑑賞教室に二十数名で参加してきました。

今回の公演は「仮名手本忠臣蔵」の中でも感動の涙を誘う悲劇「お軽と勘平」でした。「忠臣蔵」は江戸時代以来、芝居の独参湯（ぞくじんとう）といわれてきました。独参湯とは、氣つけの妙薬の名。芝居が入りつづきのとき「忠臣蔵」を出せばかならず当たって、景氣回復したからです。

昔から今まで変わらないこの「忠臣蔵」の人氣には、いろいろ理由が考えられます。が、最も大きな理由のひとつは、この「お軽と勘平」の人間悲劇が万人の同情と共感を呼ぶからでしょう。

「忠臣蔵」は憤死した主君のために家来が命をかけて仇討ちをする物語ですが、それだけでなく封建道徳で固められた武家政治の下で苦しむ人々の健気な生き方、死に方を描いた芝居でもあるのです。だからこそ江戸の庶民から現代の私たちにまで、感動を与え続けているのでしょう。開幕前には澤村田之助さんによる実演解説もあり、歌舞伎を何倍にも楽しむことが出来ました。

（国文学科 二年 越野絵美子記）

先生方のご著書紹介

青木生子先生

『目白の丘、生田の森』

『二十一世紀の女子教育へ』

三期十二年の学長職を回顧して書かれた書。

『明日の女子教育を考えるー女子大学長の手帳から』『近代史を拓いた女性たちー日本女子大学に学んだ人たち』に続く三部作の一。

女子総合大学への夢、上代タノ、国文科の五味智英、国田百合子、中島斌雄、井上百合子先生の思い出、「日本女子大と山川登美子・茅野雅子」「現代に生きる平塚らいてう」など学園随想が清冽に語られています。

講談社刊

一九〇〇円

井上百合子先生記念論集
『近代の文学』

井上百合子先生のご退任を記念して計画された論集。発行を待たず先生は急逝されましたが、先生の近代文学者としての業績を記念し、ゆかりの方々、国文科の教授、助教授、学恩を受けた卒業生二五名による近代日本文学の作家論、作品論を書き下ろしています。刊行会に寄せられた千名近い教え子の賛助によって発行されました。

河出書房新社刊 二二〇〇円

ご希望の方は桜楓会実業部へ

電話〇三(三九四一)七〇〇二

卒業生の会・今年度の活動

平成5年度の活動(予算)をグラフにしてみました。収入(予算)は、

繰越金 九万五千二百円

会費 五〇万

合計 一四五万二千二百円です。

繰越金が多いのは、この五年、節約に節約を重ね、名簿作成費、ワープロ購入費を蓄えてきたからです。幸い、ワープロは会員からご寄贈いただき、今年度は会員名簿を作成、お手元に届きます。(遅くなりましたが)。

グラフをご覧くださいと申しますとおわかりのように、秋の大会・公開講演会は講師の皆様のご好意で、小さな予算で大きな実りある会を開いてきております。会報の充実、回生委員の皆様のお力添えを得て、会員との親睦、研究活動の充実を一層図っていかねければと考えておりますが、その一つが今回初めて計画いたしました大会午前の研究発表会です。どうぞ、お出かけくださいますよう。

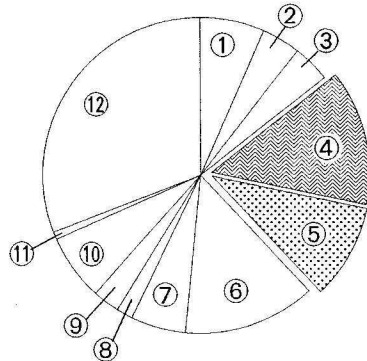
活動について、ご希望、ご意見がございましたら、お知らせください。

会は、会費収入だけで運営されております。会費の納入をお忘れなくお願いいたします。振替番号は封筒に。封筒も初めて印刷しました。少し出費になりましたが、発送時の委員の手間は半減しました。手間か出費か、そのバランスシートもこれからの課題です。

(総務・斉藤)

(グラフは右下段をご覧ください)

平成5年度活動費



伝言板

本年度の会費千円未納の方は、「国語国文学会だより」(七月発行)に同封致しました払込用紙に、氏名・電話番号・回生を御記入の上、郵便局からお振込み下さい。

振替番号：東京九一九七〇七

日本女子大学国語国文学会

一九九三年十一月一日

発行・日本女子大学国語国文学会

卒業生の会